



寺澤 則忠

三友システムアプライザル
取締役会長



バイオリニストの父



ザルツブルクのモーツァルテウム大ホール。



ザルツブルクのモーツァルトの生家。

バイオリニストである娘の寺澤希美^{のぞみ}がCD「Lovely- 恋音」を最近リリースしたこともあり、「バイオリニスト寺澤希美さんのお父さん」と紹介される機会が増えてきた。希美は世界的に知られているザルツブルク音楽祭の「コンチェルトソリスト・コンクール」に優勝し、優勝者としてモーツァルテウム大ホールでメンデルスゾーンのバイオリン協奏曲を演奏した。翌日まちを歩いていると、「昨日の人ですね。とても

素晴らしい演奏だった」と何人もの人から声を掛けられたという。

このとき私は日本政策投資銀行の役員で、予算要求の時期のため、日本を離れることができなかった。

一昨年七月、念願のモーツァルテウム大ホールを訪れた。ザルツブルク音楽祭の始まった時

期だった。大ホールのステージは、品のある美しい黄金色に輝いており、その舞台に映えるように美しいパイプオルガンがあった。オーケストラの演奏が始まると、かつて希美がこの舞台でオーケストラとともにソリストとして、メンデルスゾーンの協奏曲を演奏したのだと思い、胸がいっぱいになり体の震えが止まらなかった。

バイオリニストは能力と努力と健康が大前提だ。コンサートでは常にベストコンディションで最高の音楽を創り出さねばならない。たった一度しか聞く機会がないかもしれない来場者に、演奏を通じて自分自身のすべてを伝えなければならない。

演奏家はいつもさらに上を目指す。芸術的追求に終わりは無い。私には到底できない厳しい道だ。

私は組織で仕事をする「会社勤め」でよかった。バイオリニストでなく「バイオリニストの父」でよかったとつくづく思っている。